

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2447 号

Risk factors for resignation from work after starting infertility treatment among Japanese women: Japan-Female Employment and Mental health in Assisted reproductive technology (J-FEMA) study

日本人女性における不妊治療開始後の離職に関するリスク因子の解明

今井 雄也 (いまい ゆうや)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、不妊治療開始後の離職に関するリスク因子を明らかにした、臨床的に意義のある論文である。

本研究は、日本全国の不妊治療専門の外来に通院する女性患者を対象に、自記式質問紙（調査票）を用いて行った大規模疫学調査である。年齢、婚姻状況、学歴、不妊治療歴、女性及びパートナーの就労や職場の状況に関する設問を含む調査票への回答が得られた1,727人の女性患者のうち、不妊治療開始時に就労しており、不妊治療と就労の両立が困難と感じていた1,075人の女性患者を本研究の解析対象としている。

多変量ロジスティック回帰分析を用いて不妊治療開始後の離職に対するリスク因子を検討した結果、学歴が大学未満、不妊期間が2年以上の多変量調整オッズ比（95%信頼区間）はそれぞれ1.58（1.07-2.34）及び1.82（1.15-2.89）であった。非正規社員の多変量調整オッズ比は2.65（1.61-4.37）と有意に高く、職場での不妊に関するハラスメント及びサポート不足の多変量調整オッズ比も有意に高く、それぞれ1.71（0.98-2.99）及び1.95（1.28-2.86）であった。

欧米やアジア各国で、不妊治療を受ける女性が近年増加している中、不妊治療と就労の両立には様々な課題がある一方、不妊治療と就労に関する研究報告は少なく、不妊治療開始後の離職に有意に関連する5つの要因を明らかにした本研究結果は、不妊治療と就労の両立支援に関する社会的な議論やwomen's health等に関するhealth literacyの研究発展に資することが期待される。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。